

陣痛室に癒やしアート 磐田 学生ら「お産スムーズに」



陣痛室のベッド頭上の壁にアートを
施す大学生ら＝磐田市立総合病院で

た。植物の持つ生命感、エネルギーをイメージした」と話す。

マイクを手に学生や病院関係者に呼び掛け、作業の進行を担当した同大文化政策学部3年の長沼かほりさん(21)は「妊婦さんの気持ち少しだけでも楽になれば」と話した。

学生たちは、銀色で無機質な分娩室の扉にもアートを施し彩りを添えた。

(勝間田秀樹)

出産に臨む妊婦さんの緊張を和らげようと、磐田市立総合病院で20日夜、静岡文化芸術大の学生や山崎薫院長ら医師、看護師らが陣痛室の壁などに「植物」をテーマにしたホスピタルアートを施した。

絵の具を流しあらかじめ模様を付けた直径40センチの円いキャンバスを、周産期母子医療センター産科病棟内の陣痛室ベッド頭上の壁に飾り付けた。その周りには、花や葉をかたどった淡い黄色や水色のシールを波形の線に沿うように貼り付けていった。

デザインを手がけた同大デザイン学部3年の田中希実さん(21)は「円いキャンバスには妊婦さんを応援する人々の思い、花や葉の形を波のように並べた部分にはお産がスムーズに進むようにとの思いを込め